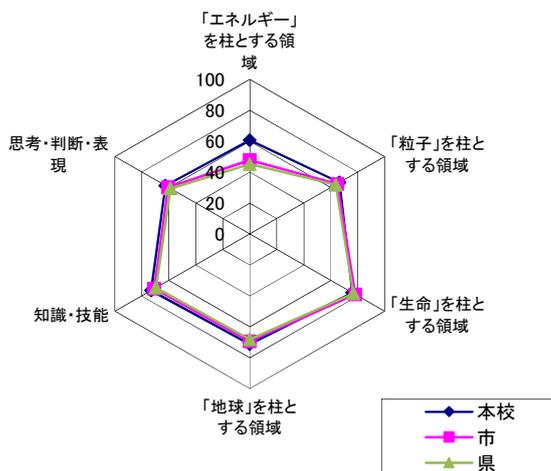


宇都宮市立桜小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	60.7	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	66.5	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	76.0	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	71.3	69.5	68.1
観点	知識・技能	73.1	70.8	69.5
	思考・判断・表現	62.4	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○電流の働きにおいて、回路のつなぎ方の名称を正しく答えたり、電流が大きくなる回路を選んだりすることがよくできている。導線や豆電球、モーターなどを使って、実際に回路と作ったり操作したりする活動を重点的に行うことで、回路のつなぎ方と電流の大きさの関係についての基本知識が身につけていると考えられる。</p> <p>●検流計の針のふれ方から、電流の大きさや電流の流れる向きを数値としてとらえることに課題が見られる。</p>	<p>・導線やモーター、豆電球などの実験道具は、児童一人一人に配付することで、積極的に児童がそれらをつなげたり、操作したりすることができるので、今後も回路を作る活動を充実させていき、モーターを使った車や6年生の発電に関する学習内容においても、回路を意識しながら授業に取り組んでいく。</p> <p>・検流計を扱う学習は、グループで行っているのですが、児童全員が回路をつないだり、操作したりする機会が少なくなってしまう。今後は、学習内で検流計を用いる機会を意識的に増やし、多くの児童が実験用具に触れられるようにしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○金属を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化についての理解度が高い。金属の性質を、日常生活の場面と結び付けて考えることができている。</p> <p>●水や空気の温まり方や、温められた際の変化についての理解に課題が見られる。</p>	<p>・実験の導入として、児童にとって身近な、牛乳パックやペットボトルなどを用いた簡易的な実験を提示することで、児童の実験への興味を向上させ、また、実験のイメージをもちやすくする工夫を図っていく。</p> <p>・児童が実験の意図をより理解して取り組むために、実験を行う前に、水や空気の温度と体積の変化をどのようにしたらとらえられるかを児童に考えさせる活動を行う。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○人の体のつくりと運動に関する問題については、運動と連動した筋肉の動き方をよく理解している。人の腕の模型を実際に動かしながら、筋肉の様子をよく観察する学習を行った成果であると考えられる。</p> <p>●季節と生き物についての問題では、季節ごとにカエルや桜の様子をあてはめたり、選んだりすることに課題が見られる。</p>	<p>・児童にとって身近な桜の木の、季節ごとの様子について、具体的な変化をまだとらえられていないので、様々な生き物や植物にふれさせたり、飼育したりすることで、児童の生き物への興味・関心を高め、観察力を高める取り組みを取り入れていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均高い。</p> <p>○満月の名称を答えたり、月の動き方と動く向きを正しく答えたりする問題について、よくできている。</p> <p>○水が蒸発することで、空気中に水蒸気が出ていき、冷やすとまた水に戻ることをよく理解している。</p> <p>●天気の流れ方として正しい文章を選んだり、晴れの日のお気温の変化のグラフを選んだりする問題に対して課題が見られる。</p>	<p>・これまで晴れの日、雨の日、曇りの日の気温の変化を、児童が調べる活動を行ってきた。今後は、これらの活動を繰り返し行い、実際に児童が気温の変化のグラフを作ることで、さらなる学習内容の定着を図っていく。また、インターネットで気象庁のホームページを授業に活用するなどの取り組みを行っていく。</p>